

主題	デイサービスで出来るレスパイトケアへの取り組み		
副題	地域で暮らし続けるために・・・		
認知症ケア			
研究期間	12ヶ月	事業所	認知症対応型通所介護 第二光陽苑デイサービスセンター
発表者：萩原 久美子（はぎわら くみこ）		アドバイザー：深澤 和幸（ふかざわ かずゆき）	
共同研究者：			
電 話	03-5991-9917	メール	dai2kouyouen@mx5.ttcn.ne.jp
FAX	03-5991-9918	URL	http://www.timelyhit.jp/senyoukai/

今回発表の 事業所や サービスの 紹介	社会福祉法人泉陽会が母体である第二光陽苑デイサービスセンターは、練馬区関町北にあり、平成11年5月に開設。現在は、通所介護40名、認知症対応型通所介護12名、特養・短期入所生活介護・訪問介護・居宅介護支援事業所・地域包括支所を併設している。
------------------------------	--

《1. 研究前の状況と課題》

一日中徘徊が見られ、言語障害、意志の疎通が困難な状態であるA様（男性・79歳）は、妻と2人暮らしで妻は出来る限り自宅での在宅生活を望んでいる。

しかし、以前2ヵ所程通所していた事業所では対応が困難と支援が止まってしまう事があり、妻の介護負担にも限界が見えてきた。当センターの認知症対応型の通所介護に通所されることで、継続的に安心安全な通所サービスの提供出来るかが課題であった。

《2. 研究の目標と期待する成果・目的》

A様が地域で安定した生活を維持し、デイサービスでのご利用を通じ、ご家族へのアドバイスや介護負担を軽減できるようにし、在宅生活においても何らかの反映が施せるような支援に取り組んだ。

①A様の有する能力を発見しながら、日常生活に活用でき、徘徊行動に変化が見られたのではないだろうか。

②服薬がうまくできない状況があり、その方法等をご家族と情報交換を密にすることが、どこまで実践出来るだろうか。

③ご家族の介護に対しての精神的負担を和らげるための支援につながっていくだろうか。

《3. 具体的な取り組みの内容》

- ①A様の生活環境を把握する。その中から、問題点や改善点を見つけ出し、対応方法を決定していく。
- ②ご家族の介護負担を軽減する。ご利用日の設定や、ご家族に認知症への理解や対応方法について協力していただけるよう働きかけ、密に関わりを作っていく。
- ③徘徊行動に代わるアクティビティ（活動）を提供する。パズルやゲーム等、集中できるプログラムを考え、落ち着いた時間を過ごす事が出来るように、A様の興味を引き出していく。
- ④薬の安定した服用を実施する。全く服用出来ていない事による精神的な不安を取り除き、医師への相談ができる環境を作っていく。
- ⑤A様が笑顔で過ごせる日常生活の構築を目指していく。通所サービスで出来るレスパイトケアを探り、今後の支援に繋げていく。

《4. 取り組みの結果と考察》

- ①一日中徘徊をしていたが、パズルやゲーム等のアクティビティを提供することにより、活動の幅が出来てきた。ご利用一か月ほどで職員と環境にも馴染まれた様子で、職員の声掛けにも理解されている様子が伺え、昔の仕事柄の几帳面な一面からパズルに興味があるようで、ご家族にも報告し、自宅でも集中して行っているとの報告をいただいた。
- ②ご家族へ服薬の必要性や関わり方についても情報交換を交わし、自宅での方法についてもアドバイスをを行う。妻も真剣に考えるようになり、医師への相談や安定した体調管理を行おうとする気持ちが見受けられてきた。
- ③週1回から週4回へと通所サービスの利用も増え、妻の精神的、身体的な負担の軽減が図られてきている。通所サービスを利用している時間が介護から解放される時間であり、在宅生活を維持していくためには無くてはならない時間になった。
- ④対応の難しいご利用者について、職員は援助方法の話し合い等の必要性を実感し、事業所として提供出来るご利用者・ご家族へより良い支援の方法が少しずつ確立されてきている段階である。

《5. まとめ、結論》

様々な家庭環境や介護サービスの選択肢が増え、在宅での介護を選択されないケースも多くみられる、その中で入所系のサービスを選択できない方、もしくは出来ない方は家族の介護力に頼わざるおえない現状があり、通所サービスが担う役割は大きいと考えており、A様やご家族の意思を尊重し、その方々が地域で安心して暮らせる為の支援を見つめ直しながら、出来る限り臨機応変に対応できる事が必要とされている。

《6. 倫理的配慮に関する事項》

なお、本研究発表を行うに当たり、ご本人（ご家族）に口頭で確認し、本研究以外では使用しない事、それにより不利益を被ることがないことを説明し、回答を持って同意を得たこととした。

《8. 提案と発信》

通所サービスにおいては、何等かの認知症状を持っている方も多く利用されており、状況によってより個別の対応が求められてきている。通所介護では支援が難しい場合も多く、認知症対応型通所介護がもっと整備されてくれることを望んでいる。そして、その役割等をそれぞれの実施している事業所等で明確にし、地域の資源としてアピールしながら、ご利用者とその家族が安心して地域で暮らし、ゆとりの持てる介護が出来るようになっていかなければならない。私達通所サービスを提供するものが率先してその役目を担っていかなければならない。

「その人らしく生きる」とは、要介護者だけではなく、家族を含めた生活全般を支えてこそかなえられる生き方ではないかと考える。家族やケアマネジャー、医療との連携を図り、通所サービスで出来る「レスパイトケア」を実現していくことが大切だと思う。

【メモ欄】